

【平成29年度インバウンド調査結果】

平成 29 年 10 月

石垣市 企画部観光文化スポーツ局観光文化課

<調査概要>

(1) 調査の目的

平成 27 年度に改定された石垣市観光基本計画の具体的施策「10.観光統計・顧客満足度調査の実施」を基盤とし、年々増え続けている外国人観光客の動向を探る調査を実施し、本市におけるインバウンドの動態を把握するだけでなく、今後の 2020 年東京オリンピックパラリンピックに向けた施策づくりに向けて、行政だけでなくオープンデータ化して、官民一体となったインバウンド対策に向けての分析資料とする。

(2) 調査対象者

調査期間中、石垣空港を利用して石垣島を出発する外国人。

第 1 回 2 月調査 137 サンプル

第 2 回 8 月調査 205 サンプル

但し、閑散期である 2 月に実施した第 1 回調査においては、便数的に空港利用外国人客が少ないことから、補足的にホテル調査も実施したため、石垣市内の宿泊施設を利用した外国人も含まれる。

(2 月調査内訳) 石垣空港利用者:113 サンプル、石垣市内宿泊施設利用者:24 サンプル

(3) 調査手法

英語・中国語・台湾語の 3 言語に翻訳された自記入式アンケート用紙を用いた調査

(4) 調査時期

第 1 回 2 月調査 2017 年 2 月 24 日(金)～2017 年 2 月 26 日(日)

第 2 回 8 月調査 2017 年 8 月 2 日(水)～2017 年 8 月 4 日(金)

※2 月の石垣市内宿泊施設利用者対象調査は、2017 年 2 月 23 日(木)～2017 年 3 月 12 日(日)の期間実施。

(5) 調査実施会社

株式会社ネオマーケティング

(6) 調査結果の見方

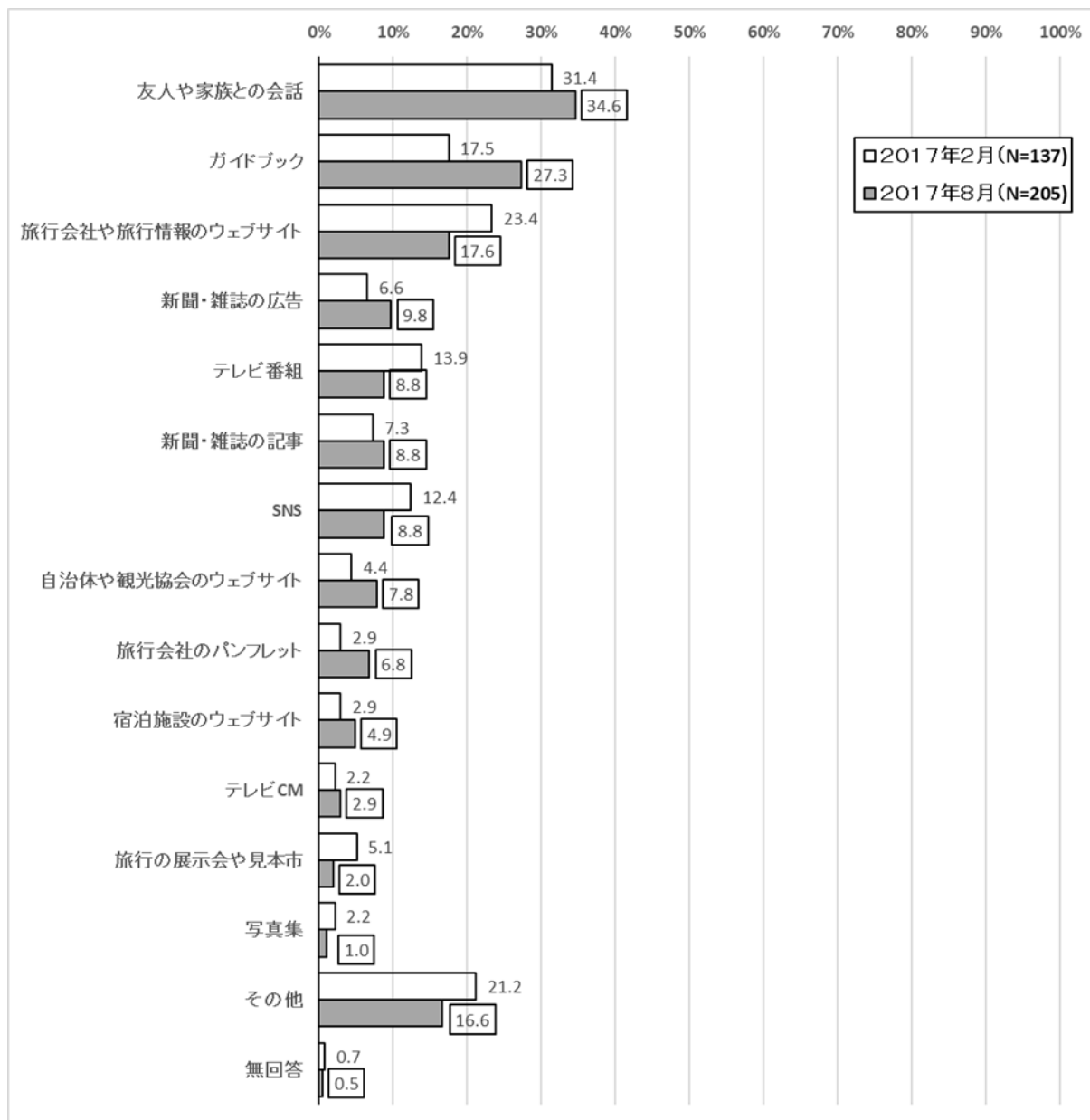
- ・n は回答者数を表している。
- ・回答率(%)は小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示している。このため、合計数値は必ずしも 100%とはならない場合がある。
- ・設問の回答には、単一回答と複数回答がある。複数回答の設問は、回答率(%)の合計が 100%を超える場合がある。
- ・n が 30 未満の数値は参考値とする。

1. 結果の要約

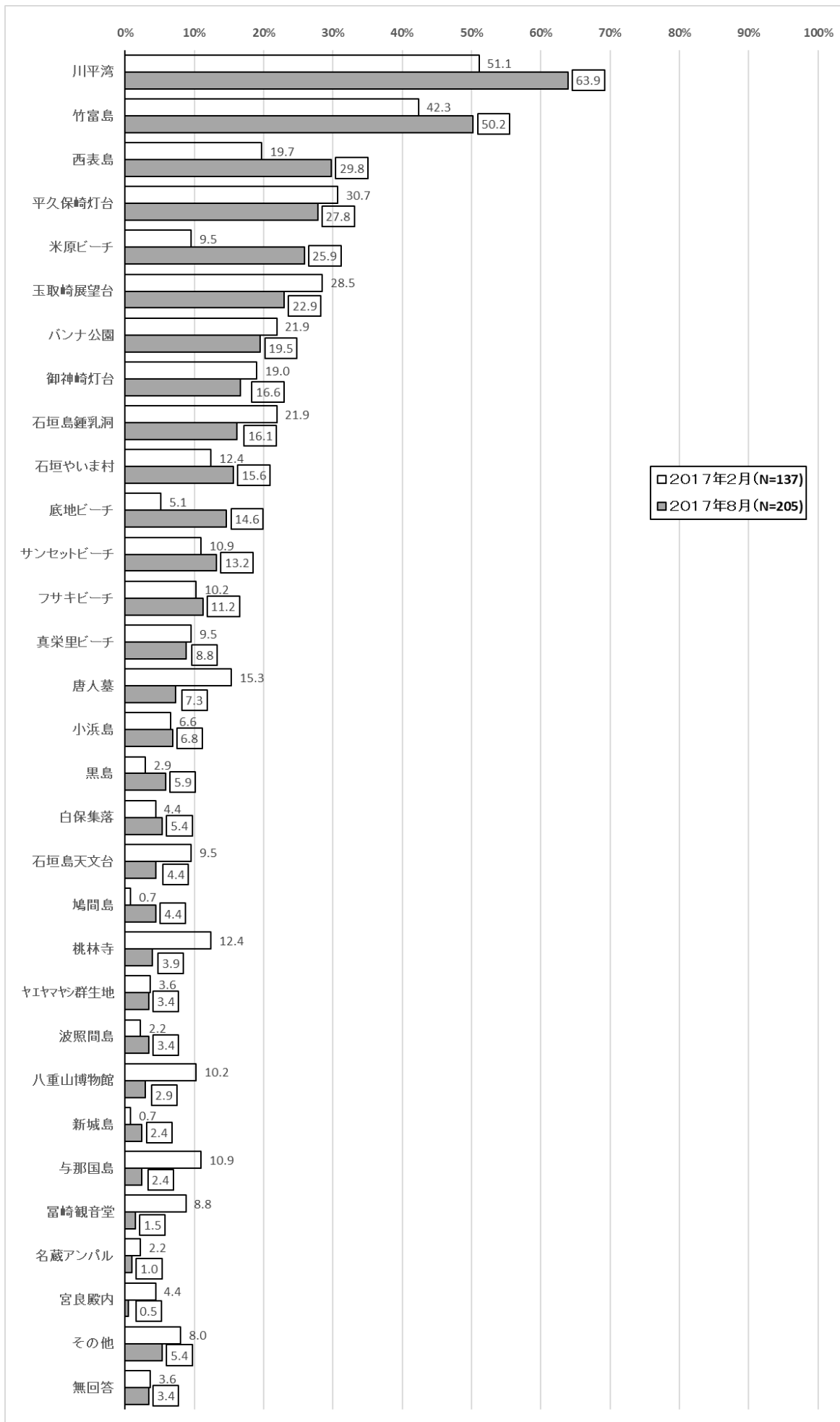
	2月調査	8月調査
回答者属性	香港在住の中国国籍者が半数近くを占め、年代も30代が中心で、日本在住者の比率も高め。	欧州国籍者の比率が高く、年代は分散している。中国在住でもマカオ在住が目立つ点が特徴的。
来訪回数	海外旅行経験は10回以上が62.8%を占め、海外旅行経験が豊富な人が多い。	初来島の比率が相対的に高い。海外旅行経験は10回以上が50.2%に留まる。
来訪実態	石垣空港からの入国が半数以上。友人同士、夫婦、ひとり旅が目立つ。 日本の他の場所を経由しての来島は全体の4分の1。	家族連れが中心となり、住んでいるところから直接来訪の比率が相対的に低く、日本国内のどこかに寄ってからの来訪が多い。 ガイドブックを情報源とした人が多かった。
宿泊実態	石垣島内の宿泊日数は平均3.1泊。 中国籍・石垣空港入国者は「4泊」が最も高い。 これは調査期間中、香港エクスプレスの就航が火曜到着土曜出発だったことの影響が考えられる。石垣島以外離島の宿泊日数は平均0.6泊。	石垣島内の宿泊日数は平均3.9泊で、2月に比べ多くなっている。 中国籍・石垣空港入国者は「3泊」が最も高い。 石垣島以外離島の宿泊日数は平均0.6泊で、2月と同様。
域内行動実態	移動時の交通機関は、船・レンタカー・空港リムジンバスの順で高い。 訪問場所は、川平湾・竹富島・平久保崎灯台・玉取崎展望台の順で高い。 買物場所は、スーパーマーケット・石垣市公設市場・コンビニエンスストア・空港の売店の順で高い。 購入物は、菓子類・酒類以外の飲料・日用品・酒類の順で高い。 石垣島等でしたことは、地元の料理を食べた・海、山などの自然の景観を楽しんだ・地元のお土産を買った・名所・旧跡の観光・写真・動画撮影の順で高い。	移動時の交通機関は、2月に比べ30代の路線バスの利用が高め。 訪問場所は、2月に比べ川平湾・西表島・米原ビーチへの訪問が高い。 買物場所は、2月に比べ空港の売店の利用が低く、コンビニエンスストア利用が高い。 購入物は、2月に比べ菓子類が低くなり、果物・野菜が高い。 石垣島等でしたことは、2月に比べマリナクティビティ・星空観察・海、山などの自然の景観を楽しんだ・地元の人との交流が高い。
経済指標	石垣島訪問の支出総額は日本円に換算して平均148,488円。該当平均人数は2.1人。 一人当たりでは平均81,423円 個人年収は日本円換算で平均5,216,558円。	石垣島訪問の支出総額は日本円に換算して平均211,413円。該当平均人数は2.8人。 一人当たりでは平均94,340円 個人年収は日本円換算で平均3,826,218円。
評価指標	要素別満足度は、食事のメニュー・味、観光施設や宿泊施設でのおもてなし、食事施設の順で高い。 全体での満足度は、大変満足38.0%で、満足度合計では91.2%。 期待との比較評価では、期待以上に良かった27.0%で、好評価合計では85.4%。 再来訪意向では、必ず来たい29.9%で、意向あり合計では89.1%。	要素別満足度は、2月と比べWiFiと両替の利便性が高めで、案内表記の分かりやすさが低め。 全体での満足度は、大変満足46.8%で、満足度合計では95.6%。 期待との比較評価では、期待以上に良かった42.4%で、好評価合計では95.6%。 再来訪意向では、必ず来たい33.2%で、意向あり合計では93.7%。

2. データの抜粋

< 来島前の石垣島の情報源 >

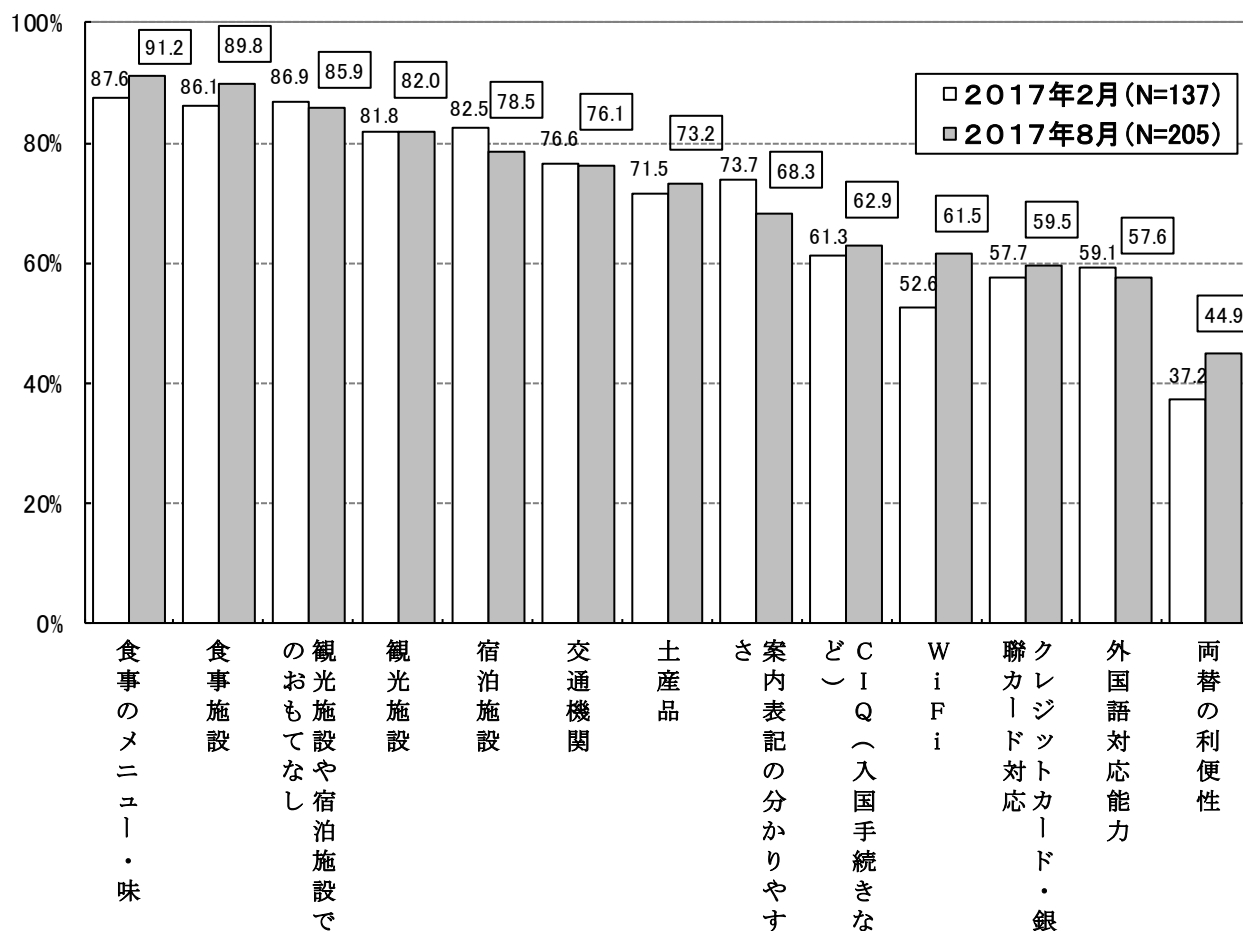


<訪問場所>



<石垣島訪問の要素別満足度>

※値は「満足」と「やや満足」の合計値



【総評】

空港を利用して石垣市内に訪れる外国人観光客は、2月の閑散期と8月の繁忙期では、属性にかなりの違いがみられる。

2月に訪れる人々は、海外旅行慣れした個人旅行客いわゆるFIT層が多いと推察され、アウトドア系のアクティビティには向かない天候が続く時期に来訪した分、8月に訪れる人々よりも竹富島以外の周辺離島への訪問は少ない。ただ、相対的に経済的な余裕はあるものと思われる。

8月に訪れる人々は、夏季の日本への旅行の一環で石垣島を訪れているファミリー層が多いと推察される。気候的にも恵まれた時期のため、ビーチ、離島への訪問も多く、地元の人々との交流も含め、アクティブに石垣島を楽しみ、滞在も長めで、支出する金額も相対的に多めとなっている。結果、満足度のレベルは8月に訪れた人々の方が高く、再来訪意向も高い。

今後の全国的なインバウンドの増加が見込まれる中、石垣島圏域ローカルにおけるインバウンド対応戦略を構築する上では、繁忙期の受け皿の拡大と、閑散期の満足度向上施策の両面を考慮していく必要がある。特に香港路線の拡充に伴い、欧米系のインバウンドが占める割合が増える可能性がある点は、このエリアの特徴として念頭に置くべきか。